２０２３年度事業計画

基本方針

当財団の定款に示されている「清水港を中心に広く全国における海事に関する資料を収集、保存及び展示し、清水港の歴史的変遷を紹介することにより、海事関係者に対する海事知識の普及を図るとともに、地域住民の海事思想の高揚を図り、もって清水港の発展と振興に寄与することを目的とする」にのっとり、清水の発展と地域住民のアイデンティティが港と不可分であり、「海と人、生活を結びつける港」の意義を深く伝えていく市民への文化の発信拠点として機能していくことを使命と考えております。

そこで、地域の歴史や民俗を含めた海事関係事業を中心とし、当地域に縁をもつ作家の紹介も含めて博物館事業を展開しています。また、周辺住民との交流はもとより、将来を担う子どもたちへの学習と情報提供を行う拠点としての事業も模索しております。

1991 年に財団法人清水港湾博物館となり、煉瓦建築の施設となりました。2012 年には、より港湾に親しんでいただく事業を実施するために一般財団法人清水港湾博物館へと移行しました。今後とも、設立の趣旨及び財団の設置目的を達成するため、港湾の活性化により寄与することができる事業を推進してまいります。

今年度の事業について

(1) 展覧会事業

当館の展示事業は、通常基本となる海事関係を１階の「常設展示室」で紹介し、企画展示を２階の「企画展示室」で実施しています。今年度も以下の企画展を計画しています。

・企画展「オールドノリタケ」　協力：日本ポーセリン協会

5 月 13 日（土）～ 6 月 25 日（日）

オールドノリタケは日本陶器合名会社（現ノリタケカンパニーリミテド）が明治期から戦前まで欧米に輸出した陶磁器で、芸術的な絵付けや繊細な細工が特徴です。明治時代から日本陶器合名会社となった第２次世界大戦頃までの作品を集め、細密さで欧米人を魅了した”多彩“なオールドノリタケを紹介します。

・企画展「『それぞれの富士山』展」　共催：静岡県、静岡県文化協会

7 月 1 日（土）～ 8 月 6 日（日）

静岡県は山と海があり風光明媚な土地として知られており、特に富士山は霊峰とも呼ばれるように日本人にとって神聖な存在となっています。日々、富士山を仰いで暮らしている静岡県文化協会会員が創作した富士山の絵画作品により、日本人が抱いている富士山のイメージを紹介してまいります。

・企画展「開港展　－金子皓彦コレクション－」

8 月 11 日（金）～ 10 月 1 日（日）

江戸時代末期から明治時代にかけて海外に輸出された日本の工芸品の逸品を紹介します。日本の開国後に長崎や横浜の港から海外に輸出された陶磁器、金属器、漆器、芝山細工、七宝焼、竹細工、麦わら細工など多くの工芸品を紹介します。

・特別展「朝鮮通信使と清見寺」　特別協力：清見寺

10 月 7 日（土）～ 12 月 3 日（日）

徳川幕府にとって朝鮮国は正式な外交のある唯一、対等な国家でした。江戸時代に修好を目的に来日した朝鮮通信使は清見寺を 6 回訪問しています。本展は、清見寺の歴史とともに、残された全詩群により朝鮮通信使と住職の善隣外交を紹介してまいります。

・企画展「背守りと子どもの着物」

12 月 9 日（土）～ 2 月 18 日（日）

背守りは、子どもの産着の後ろ身頃の衿の付け根に色糸の縫飾をつけて、厄除けのお守りとしました。色糸で松や鶴などのめでたい縫い目をつける糸じるしや、刺繍、押絵の背守りもあります。展示では静岡で発見された背守りや、見本帖などを中心に、子どもの着物等により成長を願う風習を紹介します。

・企画展「水の絵　－幻触後の鈴木慶則－」

2 月 23 日（金）～ 5 月 12 日（日）

清水に生まれた鈴木慶則は美術家グループの「白」や「幻触」に加わり、飯田昭二らとともに 1960～70 年代前半の美術シーンを牽引していました。本展示は 1970 年代から亡くなるまで描き続けた瑞々しい「水の絵」シリーズを紹介します。

⑵ イベント事業

特別展・企画展の理解を深めるために、補助として講演会、実演会などを実施していきます。また、年 2 回の歴史講演会（柴田利雄慶応義塾高等学校名誉教諭）や現代史講座（山田吉彦東海大学静岡キャンパス長）、学芸部長講座を開催し、文化史や歴史の理解を深める事業を実施していきます。加えて、恒例となっている「キャンドルナイト」や「清水みなと寄席」も開催していく予定です。

⑶ 教育事業

夏休み期間中には 10 人を限度として静岡県内在住もしくは出身の大学生を対象とした学芸員資格取得のための実習を行っています。この事業は登録博物館に求められるもので、文化財への啓蒙活動の一環としても実施しています。また、近在の高等学校や小・中学校の生徒を対象とした職場体験事業も受け入れていきます。

⑷ 資料収集調査研究事業

清水港と港湾関係資料を積極的に調査収集していきます。大正時代以前の資料は年々難しくなってきていますが、常設展示の充実には欠かすことができない事業です。また、今後は系統だった資料の収集が必要と考えられます。